

TOPICS

第5回「なら燈花会（とうかえ）」が盛大に開催される。

2003年8月6日から15日までの期間、奈良公園周辺で「なら燈花会（とうかえ）」が開催された。なら燈花会は1999年に初めて開催され、今回で第5回目を迎える。第1回の開催以来、燈花会を訪れる観光客は着実に増加しており、今や古都奈良を彩る夏の風物詩として定着している。

「なら燈花会」とは

なら燈花会は奈良公園浮雲園地をはじめ数カ所のエリアを「ろうそく」を主とした灯りで奈良の夜を演出する、広大な規模で行われる夏のイベントである。

「「なら燈花会」を訪れた人々が幸せになりますように」。そんな願いを込めてろうそく一つひとつに灯りがともされる。



変遷

1999年夏	第1回「なら燈花会」を開催
2000年夏	第2回「なら燈花会」を開催
2000年冬	「冬の燈花会」を開催
2001年夏	第3回「なら燈花会」を開催 「早咲きの日」開始 環境省「かおり風景100選」に選出される
2002年夏	第4回「なら燈花会」を開催、会場に国立博物館を追加
2002年10月	東大寺大仏開眼1250年記念「なら燈花会 in 東大寺」を開催
2003年1月	国土交通省 全国地域づくり団体 国土交通大臣賞受賞
2003年4月	財団法人地域活性化センター 第7回ふるさとイベント大賞 産業・環境部門賞受賞 春日若宮御出現一千年祭にて春日万燈祭に参加

：「早咲きの日」とは本祭の開催に先立ち、障害者にゆっくりとりと楽しんでもらうためのイベント

過去4回の概況

	来訪者	1日当たりの来訪者	開催日数
2002年	390千人	39.0千人	10日間
2001年	280千人	31.1千人	9日間
2000年	305千人	30.5千人	10日間
1999年	170千人	18.9千人	9日間

今年の開催スケジュール

日時

2003年8月6日（火）から15日（金）までの10日間（ただし雨天等のため今年は8日間の開催となった）

- ・点灯：19時
- ・消灯：22時（今年から30分延長）

会場

奈良公園一帯

浮雲園地、浅茅ヶ原、浮見堂と鷺池、猿沢池と五十二段、奈良国立博物館前

<5周年記念新設会場>

東大寺鏡池、興福寺参道、春日大社若宮神社

中心となる「当日サポーター」

燈花会では約1万2千本のろうそくが奈良の夜に輝く。そのろうそくは毎日毎日、当日にセッティングをしてその日にすべて回収する。

企画から運営まですべてがボランティアによって行われるが、開催期間中の中心となるのは「当日サポーター」と呼ばれる一般の人たちである。

当日サポーターは1日約200人。その人員で、約1万2千本のろうそくの点灯から消灯までの作業に携わる。

したがって10日間で延べ2,000人のサポーターが必要となる。

ここで、当日サポーターの活動を紹介します。

サポーター一日の流れ

17時：当日サポーター集合

- ・簡単な作業説明の後、燈花会のステッカー2枚を衣服に貼り付け、各会場に分散する。



18時45分：点灯準備作業開始

- ・カップに水を入れる
- ・そのカップを会場に並べる
(配置は基本的に自由なので、サポーターのセンスが問われる)
- ・カップの中にろうそくを浮かせる
(このとき芯をぬらさないように注意)



<一つ一つ丁寧にセッティングする>

19時：ろうそく点灯

- ・着火器具でろうそくに火をつける
(着火には意外と時間がかかる)
- ・消灯時間まで、消えたらろうそくに着火する作業が続く



<着火器具で点灯開始>

22時：消灯作業開始

- ・カップを左右に振って火を消す
- ・カップを何カ所かに集める
- ・回収袋にろうそくを回収
- ・カップを6個ずつ重ねて専用ボックスへ収納

22時30分頃：作業終了(お疲れさまでした)

一客一燈(いっきゃくいっとう)

「なら燈花会」は見るだけでなく実際に参加できるイベントでもある。

浮雲園地と国立博物館会場では、参加費500円を払えば、誰でも自分自身の手で実際にカップを会場に並べ、ろうそくに火を付けることができる。



<一客一燈に参加>

来年、さらなる発展を目指して

数々の賞を受賞するなど着実に実績と評価を積み重ね、奈良の夏を彩る風物詩となった「なら燈花会」。

今年の開催は残念ながら雨や台風の影響で開催日が少なくなったものの、全体では35万5千人の観光客が訪れた。

毎年発展を続ける燈花会に、来年は当日サポーターとして参加してみたいかでしょうか。(サポーターの参加資格は特に設けていない。ただし16歳未満は保護者同伴。)

連絡先

「なら燈花会の会」事務局

電話：0742-21-7515 (平日10時から16時)